

2021年2月期 第2四半期決算説明会

2020年10月26日
ツインバード工業株式会社
証券コード： 6897

1. 2021年2月期 第2四半期連結決算の概要

最高財務責任者 高木 哲也

2. 社長メッセージ

- グローバルコールドチェーンのスタンダード技術をめざして —
SDGsゴール3 「すべての人に健康と福祉を」

代表取締役社長 野水 重明

2021年2月期 第2四半期連結決算の概要

2020年10月26日
決算説明会

ツインバード工業株式会社
証券コード： 6897

1

中期経営計画の主要施策効果で収益性（売上総利益率）が大幅改善

- SKU（商品管理点数）の戦略的削減と高収益商品への販売重点化
- 今後、SKUの戦略的削減は、商品企画の練度向上、開発効率・専門性向上、コストダウン、品質向上、在庫圧縮・倉庫保管費の削減など各機能に効果が波及

2

新型コロナウイルスの業績影響は通期では限定的と予想

- 当第1四半期の一時期量販店舗の閉鎖による影響を受けるも回復基調、業務用家電は影響継続
- 巣ごもり需要で調理家電堅調 ポイントサービス市場、EC市場において高い伸び

3

キャッシュマネジメント強化により、十分な手元流動性確保、財務体質改善

- たな卸資産の徹底した効率化をはじめとした総資産の圧縮
- 政策保有株式の圧縮策実行

4

F P S C事業で医療関連向けの受注、数多くの引き合い

- 製造設備投資や技術人材強化をはじめ増産に向けての体制構築中
- 現時点では業績への貢献は当第4四半期から徐々に始まり、本格的には次年度以降と予想

5

中期経営計画（2020-2022）の初年度通期業績目標を達成見込み

- 前期決算短信発表時（2020年4月9日発表）に公表した数値より変更なし

1. 2021年2月期 第2四半期決算の概要

第2四半期累計 連結損益計算書



売上高はコロナ禍の影響や前期消費増税前の駆け込み需要も影響し、前年同期比△10.7%の減収
 売上総利益率は**+3.9ptとなり収益性が向上** 親会社株主に帰属する四半期純損失は前年同期より改善

単位：百万円

(参考)

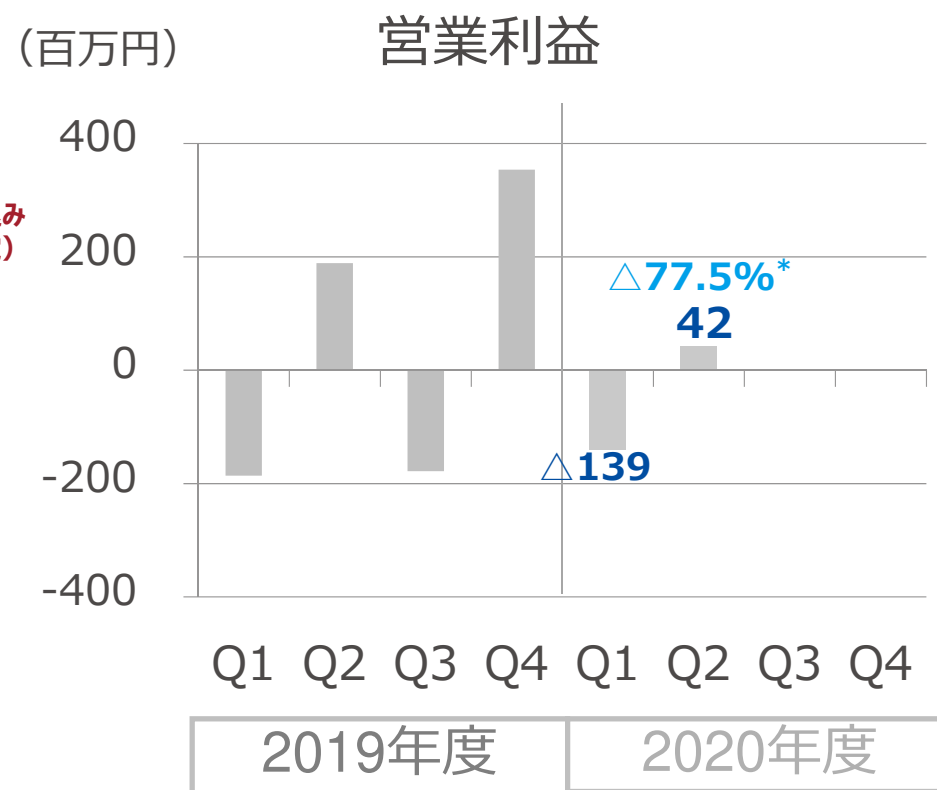
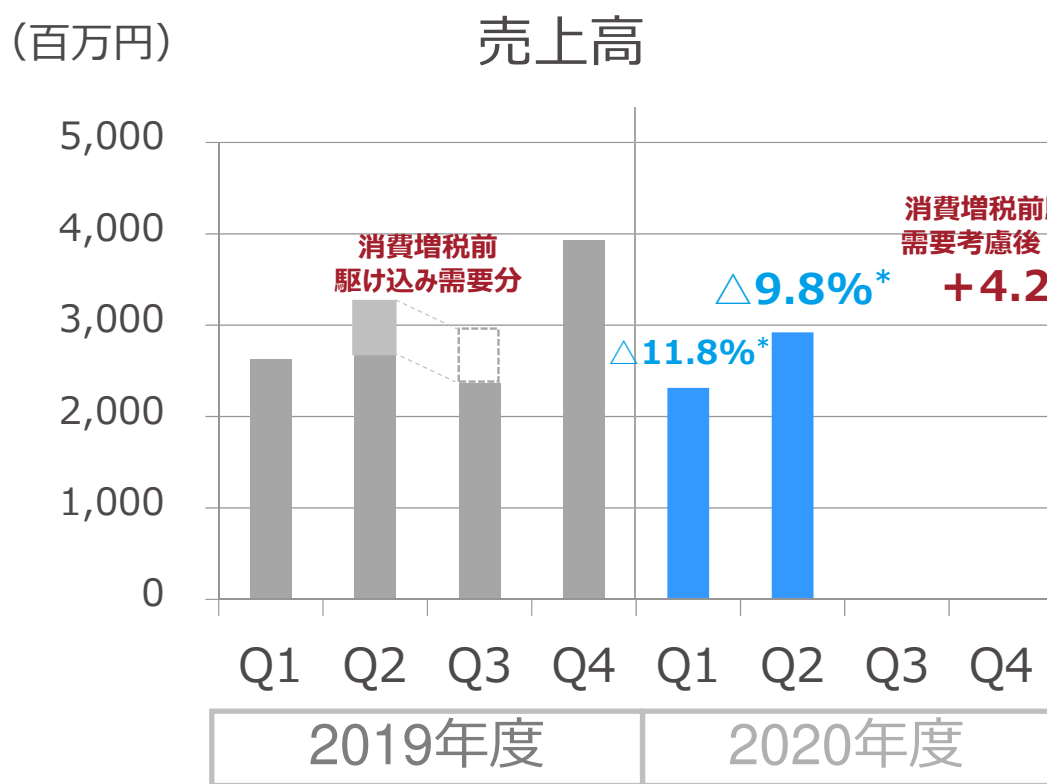
	2020年度	2019年度			2019年度	2020年度
	2Q累計 実績	2Q累計 実績	前年同期比 差額	成長率	通期 実績	通期 公表値
純売上高	5,237	5,864	△626	-10.7%	12,159	12,200
売上総利益	1,574	1,536	38	2.5%	3,505	
／純売上高比	30.1%	26.2%	3.9pt		28.8%	
販売費及び一般管理費	1,672	1,533	138	9.1%	3,326	
／純売上高比	31.9%	26.1%	5.8pt		27.4%	
営業利益又は営業損失（△）	△97	3	△100	-	178	250
／純売上高比	-	0.1%	-		1.5%	2.0%
経常利益又は経常損失（△）	△161	△67	△93	-	66	130
当期純利益又は当期純損失（△） （親会社株主帰属分）	△120	△133	13	-	△133	60

四半期別業績概況



当第1四半期：量販店の一部閉店による来客人数の減少などで減収

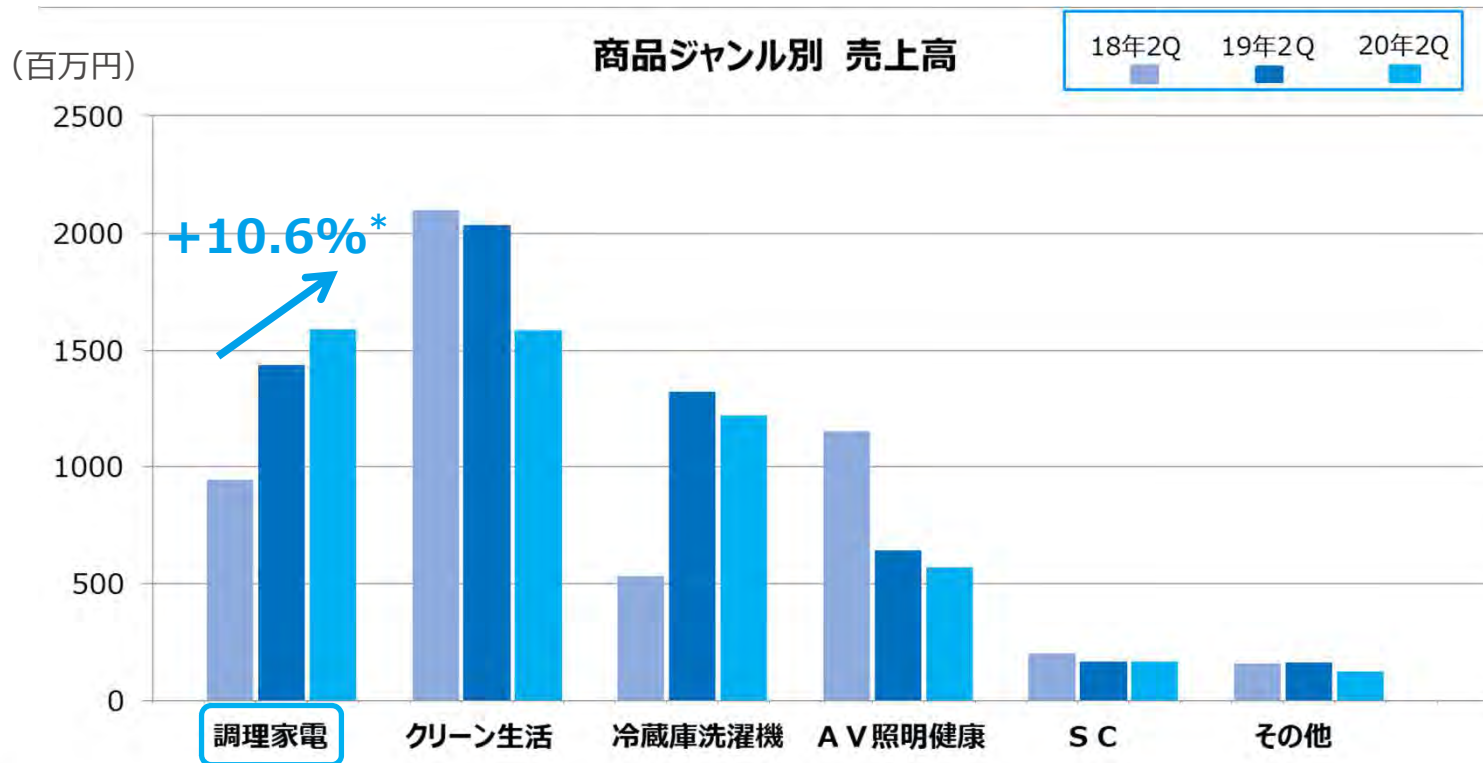
当第2四半期：前年同期は消費増税前の駆け込み需要が影響 量販市場向け販売は当第1四半期より回復



* 前年同期比伸長率

第2四半期（累計）商品ジャンル別売上高

ポイントサービス市場やE C市場におきましては、巣ごもり家電需要が引き続き拡大
ホームベーカリーやトースター、全自動コーヒーメーカーなどの調理家電が好調に推移



全自動
コーヒーメーカー
CM-D465B



センサー付
フラット
オープンレンジ
DR-E857B



ミラーガラス
オーブントースター
TS-4047W



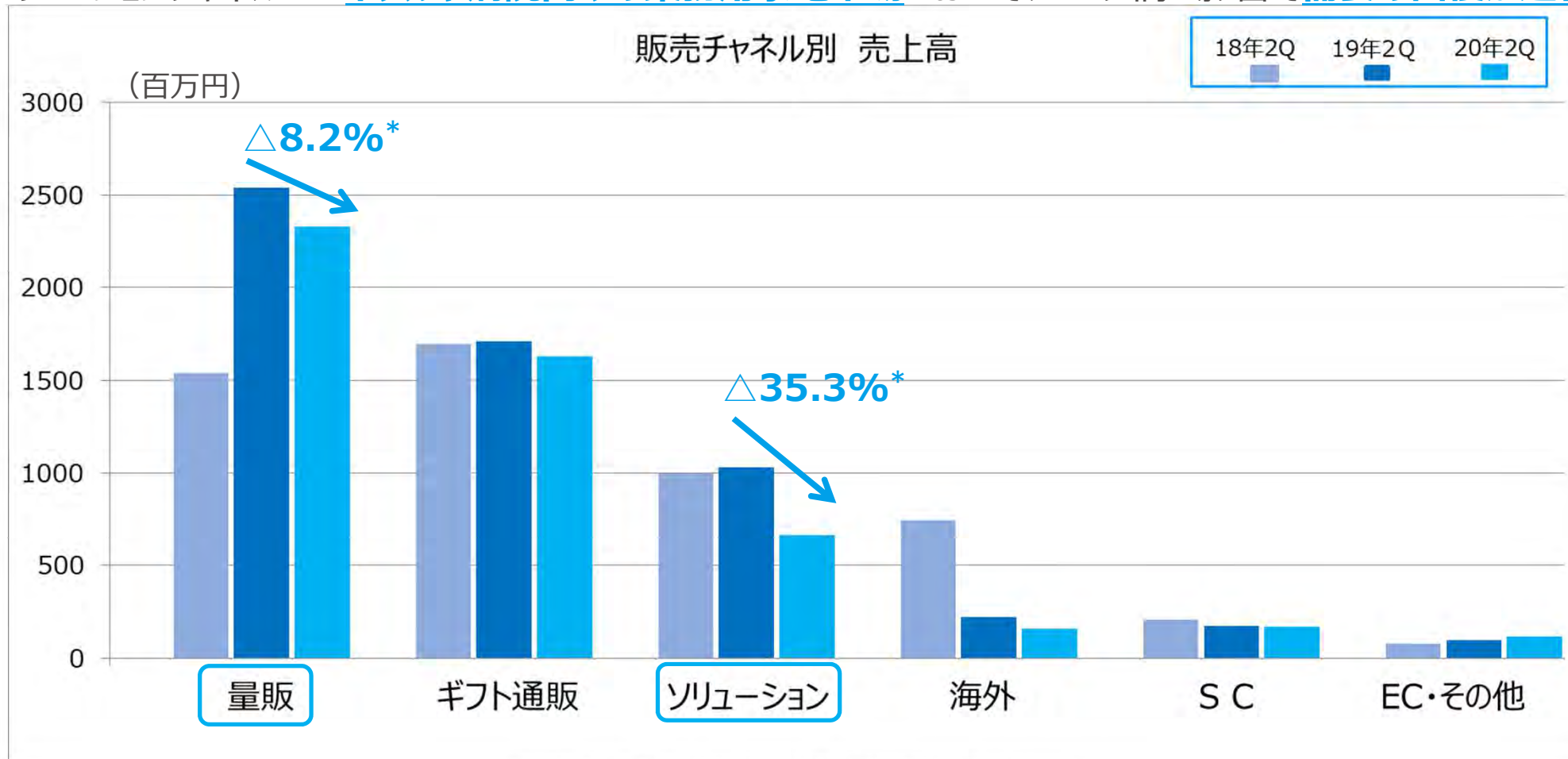
Take bran!
ブランパンメーカー
BM-EF36W

* 前年同期比伸長率

第2四半期（累計）販売チャネル別売上高

家電量販チャネル： 当第1四半期は量販店の一部店舗が閉店などが影響も、**当第2四半期は回復基調**

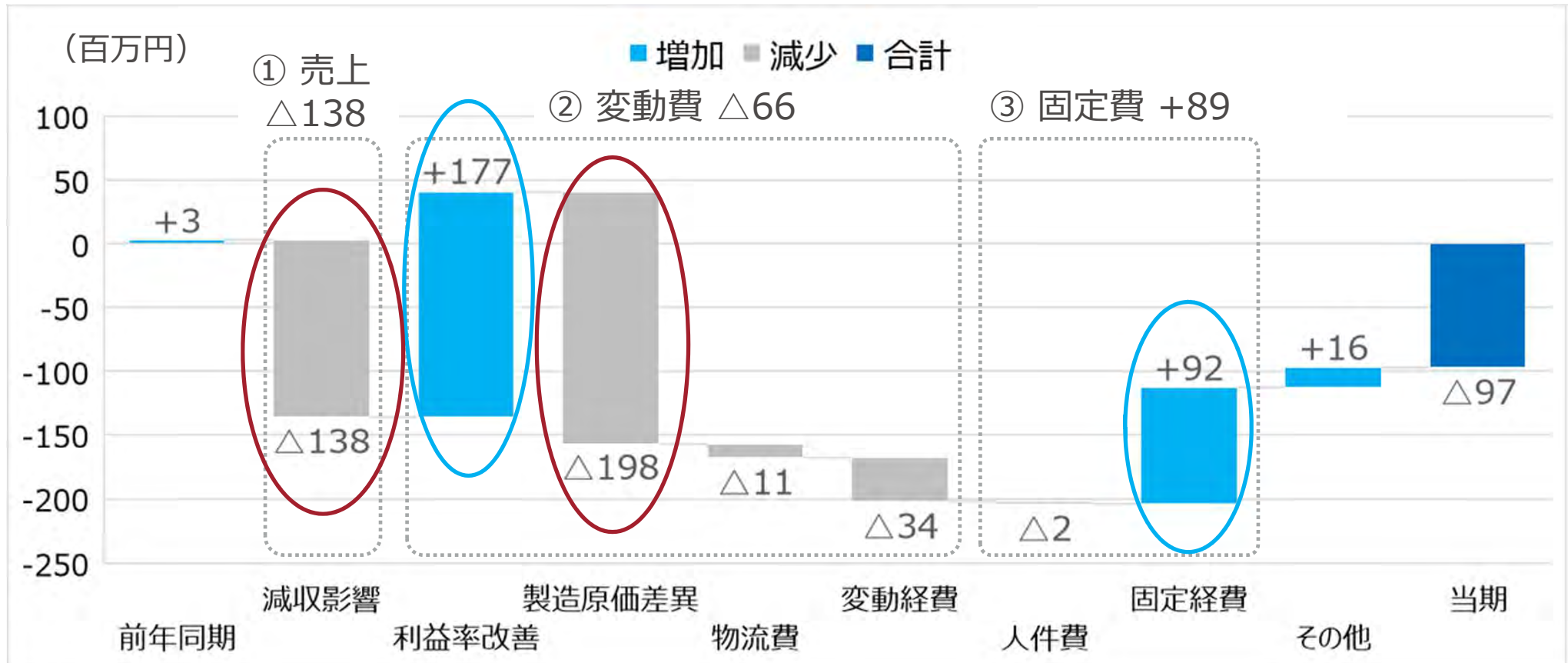
ソリューションチャネル： **ホテルや病院向けの業務用家電市場**において、コロナ禍の影響で**需要の回復が遅れ**



* 前年同期比伸長率

第2四半期（累計）営業利益 前年同期比増減

高収益商品の販売重点化や前期低減効果で売上総利益率（粗利率）が改善
 生産量の調整などで製造原価差異が悪化 旅費交通費や減価償却費等の固定経費が減少



連結貸借対照表

たな卸資産の圧縮、売上債権の減少、政策保有株式の縮減などにより、総資産が大きく減少
事業環境リスクを考慮し十分な手元流動性を確保 総資産圧縮効果により有利子負債を圧縮

単位：百万円

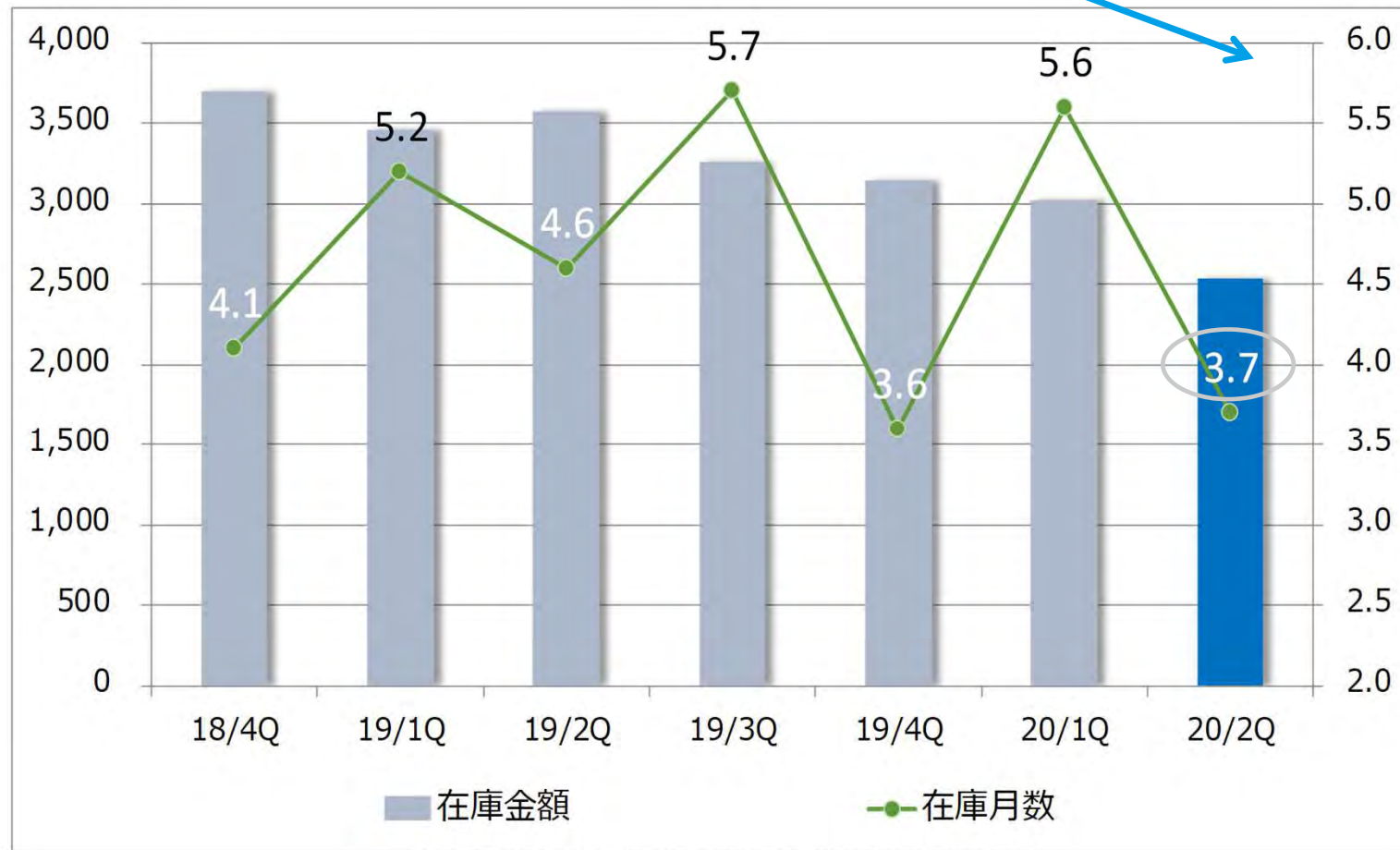
	2Q末	前期末	増減
現預金	1,644	1,066	578
売上債権	1,400	2,402	△1,002
たな卸資産	2,534	3,145	△610
その他	158	205	△46
流動資産 計	5,737	6,819	△1,081
有形固定資産	3,752	3,822	△70
無形固定資産	298	296	2
投資その他資産	559	644	△85
固定資産 計	4,610	4,763	△153
資産 合計	10,347	11,582	△1,234

	2Q末	前期末	増減
仕入債務	162	205	△42
短期借入金	600	1,100	△500
長期借入金	2,325	2,548	△223
その他	1,106	1,406	△299
負債 合計	4,194	5,259	△1,065
資本金&資本剰余金	3,580	3,576	3
利益剰余金	2,684	2,877	△192
その他	△110	△131	20
純資産合計	6,153	6,322	△168
負債&純資産合計	10,347	11,582	△1,234

たな卸資産残高推移

1 Q末よりさらに圧縮 回転月数も大きく改善

(百万円)

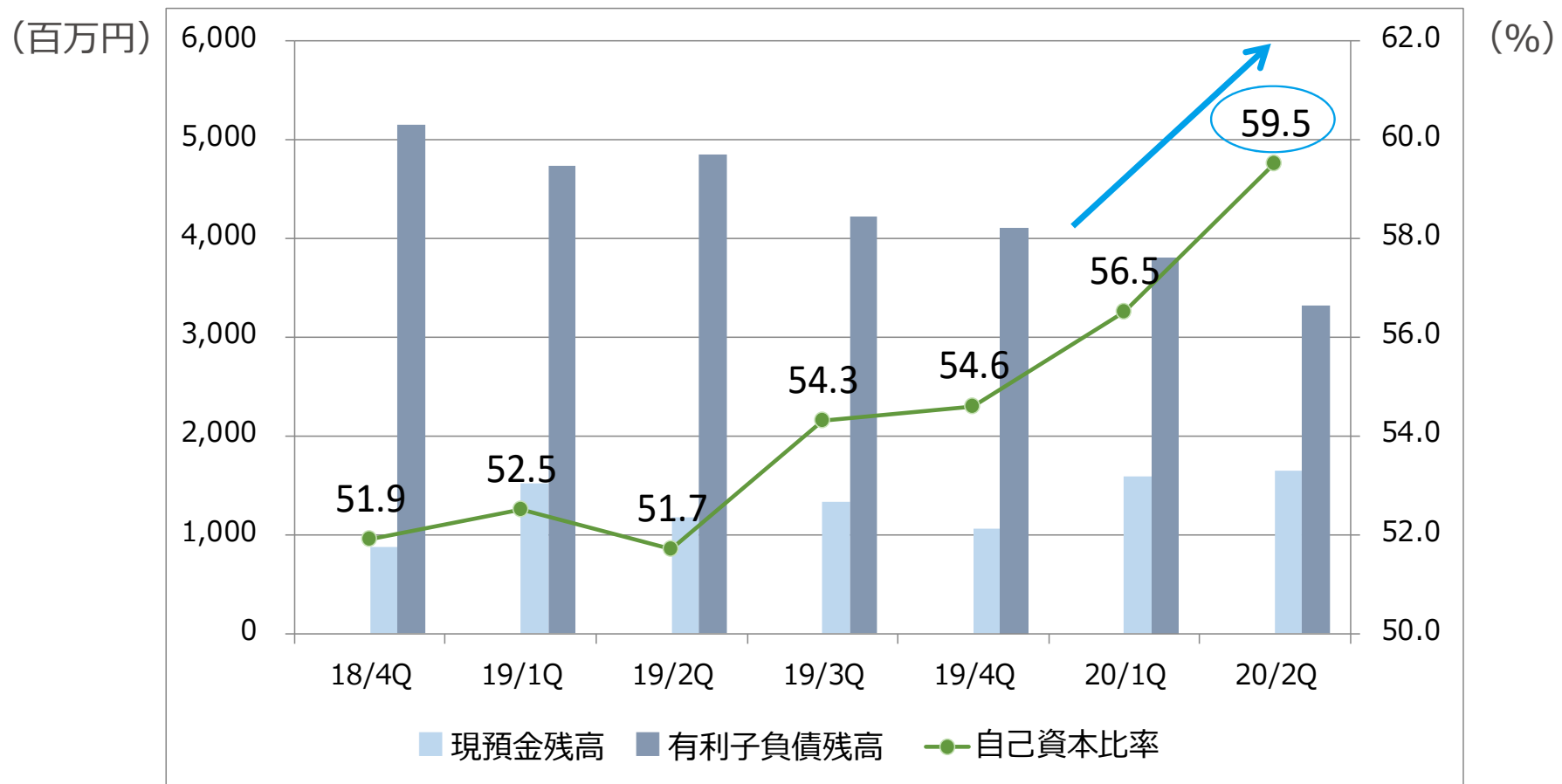


(月数)

©2020 TWINBIRD CORP. ORATION All rights reserved.

財務安全性の推移

新型コロナリスク等事業環境リスクを考慮し十分な手元流動性を確保
総資産圧縮施策の効果によって自己資本比率は前期末より大幅に改善



第2四半期（累計）連結キャッシュフロー計算書



棚卸資産の圧縮、売上債権の減少で営業活動によるキャッシュフローが大幅に増加

	実績	前年同期	増減
税引前利益	-153	-180	27
減価償却費	165	235	-70
売上債権の増減	990	228	762
棚卸資産の増減	597	124	473
仕入債務の増減	-42	50	-92
その他資産負債の増減	-195	178	-373
その他	-3	152	-155
営業活動によるキャッシュフロー	1,358	786	572
有形固定資産の取得	-57	-102	45
無形固定資産の取得	-32	-2	-31
その他	243	17	226
投資活動によるキャッシュフロー	154	-86	241
借入金の増減	-723	-215	-509
配当金の支払	-73	-72	-1
セール&リース債務の増減額	-65	-92	27
財務活動によるキャッシュフロー	-861	-379	-482
現金等の増減額	637	319	318

(百万円)

・営業活動によるキャッシュフロー

売上債権の減少、棚卸資産の圧縮により大きく良化

・投資活動によるキャッシュフロー

政策保有株式の売却収入 +184

・財務活動によるキャッシュフロー

キャッシュフローの改善により、借入金を7億円圧縮

2. 2021年2月期の業績予想について

- 業績予想につきましては前期決算短信発表時（2020年4月9日発表）に公表しました数値より変更ありません。

その結果、中期経営計画の初年度業績計画を達成する見込みであります。

1. ウィズコロナといわれる新たなライフスタイルへの対応

- **在宅で快適に過ごすライフスタイルに対応した家電製品の開発**を通じて、お客様に感動と快適さを提供

2. 下期の主要な取組み

- 年末年始商戦や新生活商戦に向けて**新製品の導入**
- **EC市場**や**ポイントサービス市場**の開拓
- 引き続き**商品ポートフォリオの最適化**や、**原価低減・変動費**の徹底した効率化を推進

2021年2月期 連結業績予想



(百万円)	2020年度 上期実績	前年 同期比	2020年度 下期見込	前年 同期比	2020年度 業績予想	前年度差	前年度比	
純売上高	5,237	△10.7%	6,963	+10.6%	12,200	+41	+0.3%	横ばい
営業利益又は営業利益	△ 97	△100	347	+97.5%	250	+72	+40.4%	収益性改善
営業利益率	△1.9%	-	5.0%	+2.2pt.	2.0%	+0.5pt.		
経常利益又は経常損失	△ 161	△93	291	+117.1%	130	+64	+97.0%	収益性改善
当期純利益又は当期純損失 (親会社株主帰属分)	△ 120	+13	180	+180	60	+193	-	黒字に回復

※ 新型コロナウイルス感染拡大による経済への影響がさらに深刻化した場合には、当社の連結業績に影響を与える可能性があります。現時点では大きな影響はないと考えています。今後、開示すべき事象が発生した場合には、速やかにお知らせいたします。

• 海外企業を中心に受注、数多くの引き合い

- Global Cooling, Inc.社より、当社製フリーザーボックスについて、初期ロットとして前期販売台数の約2倍に相当する1,000台の新規受注（バイオ医薬品の保管と輸送、そして最近では薬局、診療所、病院、地域の保健機関向けの世界的なワクチンの保管と流通に使用することを目的とした製品として採用される）
- COVID-19対応技術のODA導入可能性調査の採択（JICA）

• 現時点では当社業績への貢献は、当第4四半期から徐々に始まり、本格的には次年度以降と予想

- 本格的に販売が拡大する時期はワクチンの開発及び低温保管の物流網（コールドチェーン）の構築状況に依存
- ワクチン製造会社による生産の本格的な立ち上がりは2021年以降

- 基本方針
 - 業績を向上させ財務体質の強化を図ることで、**安定的かつ持続可能な株主還元（配当・自己株式取得）**を行う
- 配当
 - DOE1.5%以上**の水準を安定的に確保し、段階的に引き上げ
 - 2020年度においては、1株当たり11円の年間配当を予想
- 自己株式取得
 - 経営環境、業績動向ならびにフリー・キャッシュ・フローや財務レバレッジの水準、将来の事業資金需要の見通しなどを総合的に考慮し、適切な時期に機動的に実施

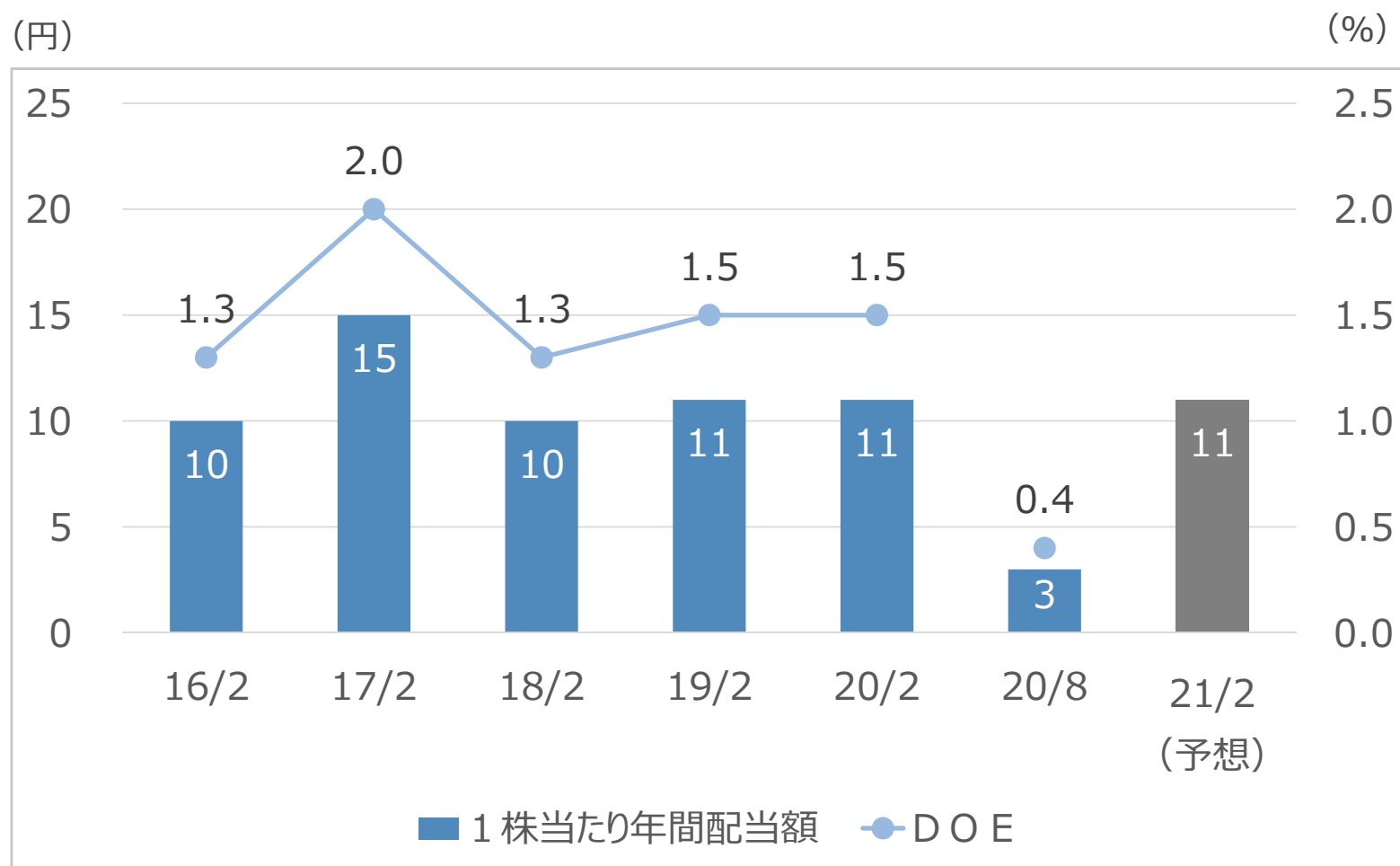


第59期（2020年3月1日～2021年2月28日）の中間配当

1. 中間配当金 当社普通株式 1株当たり **3円**
2. 支払総額 27,049,224円 （株式数9,016,408株×3円）
3. 配当の効力が生じる日 2020年11月16日

1株当たり年間配当額、株主資本配当率（D O E）

安定配当方針のもと、中間配当3円、年間では11円を計画





I Rに関するお問い合わせ先

ツインバード工業株式会社 執行役員 経営企画本部 本部長 小林 和則 (TEL : 0256-92-6111)

決算に関するお問い合わせ先

ツインバード工業株式会社 最高財務責任者 執行役員 管理本部 本部長 高木 哲也 (TEL : 0256-92-6111)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する意見や予測等は、資料作成時点で一般に認識されている経済・社会等の情勢及び、当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されており、その情報の正確性を保証するものではなく、今後予告なしに変更される可能性があります。万が一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切責任を負いませんのでご承知おきください。

©2020 TWINBIRD CORPORATION All rights reserved.

社長メッセージ

— グローバルコールドチェーンのスタンダード技術をめざして —
SDGsゴール3 「すべての人に健康と福祉を」

2020年10月26日

ツインバード工業株式会社

代表取締役社長 野水 重明

証券コード：6897

統合報告書



トップページ | 経営理念と経営方針 | 経営戦略と中期計画 | 財務情報 | 株主・投資家向け

社長メッセージ

お客様の声に真摯に耳を傾け、新潟県三条地域の職人気質のものがつくりで、お客様にご満足いただける商品・サービスをお届けし続ける会社を目指してまいります。



代表取締役社長
野水 重明

受け継がれるDNA 感動と快適さを提供する商品の開発

ツインバード工業は、2021年に創業70周年を迎えます。社名である「ツインバード」は二羽の鳥を意味し、商品をお使いになるお客様と商品をお贈る私たち二羽の鳥とを意味し、お客様の喜びが私たちの喜びである、そんな思いがツインバードの「原点」であります。

当社は1951年(昭和26年)にメッキ加工「野水製水機工業所」として創業し、設備増設や企業の周年行事など、社名である「ツインバード」は二羽の鳥を意味し、商品をお使いになるお客様と商品をお贈る私たち二羽の鳥とを意味し、お客様の喜びが私たちの喜びである、そんな思いがツインバードの「原点」であります。



10 TWINBIRD Integrated Report 2020

世界的に知られるものづくりの町である新潟県三条地域で事業を継続し、会社を安んずる中でも、創業以来一貫して守り続けてきたものがあります。それは、経営理念である「感動と快適さを提供する商品の開発」を通じて世の中のお客様に正しい喜びをもたらすことです。

事業承継から現在まで 経営自身が変わっていく

2011年に先代社長の父から事業承継し、親族する外環境の変化に順応するための会社の改革を進めてまいりました。しかし、この改革は自身が強く「あるべき会社」と「理想」との間にギャップを感じ、最近の中期経営計画2018-2020では、業績目標と実績が大きく乖離いたしました。そこで原点に立ち寄り、お客様に本来の「感動と快適さ」をご提供できているのだろうか、と考えようとなりました。

日本の家電業界を取り巻く状況は、20世紀は生活を豊かにする家電製品の大量生産、大量消費の時代でした。一方で21世紀は、モノの豊かさからモノの豊かさの時代へ変化しております。このような急激な外部環境の変化のもとで、「感動と快適さ」をお客様にご提供するには、これまで日本の家電業界を牽引してきた大手メーカーとは異なる当社の独自性を活かした経営を実現すべきであると考えました。

当社には、「感動と快適さ」を提供するこだわりものづくりで、小ロットでも収益が確保できるビジネス構造があります。また、大不況を契機となく乗り越えてきた新潟県三条地域の職人気質のものがつくりのエコシステム(相互協力関係)があり、多くの地域企業が賛同が支えていただ

事業構造を転換する

あります。この原來的な経営資源を活かしながら、60年、100年先の未来を見据え、存続発展できる企業を目指すまでであると考えに至りました。

そもそも優れた商品やサービスは、働く社員の誇りとやりがいから生まれ、益が無駄できる新たな付加価値創造の仕組みや組織の構築が必要となります。ましてや、外部環境が激変的に変化していくこれらの時代において、従来の経営資源は「人・モノ・金」でしたが、これからの経営資源は「人・人・人」と考えるべきではないかと、会社の改革のためにはまず**私たちの経営者から変わっていくこと**を決心いたしました。

このような思いを背景に、昨年、経営メンバーの若返りと体制強化を図るため、財務、開発、マーケティングやブランディングに3名のプロフェッショナルな人材を招き、半年以上にかかり長々とした議論を重ね、2020年度から2022年度までの3ヵ年中期経営計画を策定、2020年4月24日に発効いたしました。

新中期経営計画 2020-2022 企業ビジョン「お客様満足No.1」

急激に変化する外環境の中で、どのように持続可能な経営を実現できるのか、新中期経営計画策定に先立ち、経営メンバーとともに経営理念をもとにツインバードの存在意義や価値観を再確認いたしました。また、社員全員に基本アンケートを実施し、私たちの将来ありたい姿である企業ビジョンについての思いや意見を募りました。私たちは知りたかったのは、やはり「お客様の喜びが私たちの喜びである」という点でした。お客様の声に真摯に耳を傾け、職人気質のものがつくりで、お客様にご満足いただける商品・サービスをお届けし続けることこそが、ツインバードの存在意義であり、私たちの共通の価値観であることを全員で再確認いたしました。そこで新中期経営計画で目指すべき企業ビジョン「お客様満足No.1」を定め、その実現に向け努力することをコミットいたしました。

Vision(ビジョン) 将来ありたい姿

「お客様満足No.1」

お客様の声に真摯に耳を傾け、職人気質のものがつくりで、お客様にご満足いただける商品・サービスをお届けし続ける会社

基本戦略

事業構造を転換に転換
強化した財源体制を適用し収益改善で成長を目指す

TWINBIRD
ブランド戦略の向上

経営方針の向上

成長戦略の構築

TWINBIRD Integrated Report 2020 11

マネジメント体制 (2020年9月1日現在)

取締役および監査等委員

<p>野水 重明 代表取締役社長</p> <p>経歴 1989年 2月 出社入社 1999年 2月 経営企画部長 副社長 2004年 2月 海外営業部長 2008年 2月 取締役副社長 2011年 2月 取締役副社長 専任 2018年 2月 取締役副社長 専任 2020年 2月 取締役副社長 専任 2021年 2月 取締役副社長 専任</p>	<p>佐藤 勉 取締役副社長 取締役副社長 取締役副社長</p> <p>経歴 1979年 2月 出社入社 1984年 2月 生産部長 2007年 2月 副社長 生産部長 2010年 2月 取締役副社長 2011年 2月 取締役副社長 専任 2012年 2月 取締役副社長 専任 2014年 2月 取締役副社長 専任 2017年 2月 取締役副社長 専任 2020年 2月 取締役副社長 専任</p>
<p>加藤 善孝 取締役副社長</p> <p>経歴 1982年 10月 プラスワンエレクトロニクス 1992年 7月 株式会社加藤製作所 取締役 1998年 2月 取締役副社長 1999年 2月 取締役副社長 2002年 2月 取締役副社長 2003年 2月 取締役副社長 2004年 2月 取締役副社長 2005年 2月 取締役副社長 2006年 2月 取締役副社長 2007年 2月 取締役副社長 2008年 2月 取締役副社長 2009年 2月 取締役副社長 2010年 2月 取締役副社長 2011年 2月 取締役副社長 2012年 2月 取締役副社長 2013年 2月 取締役副社長 2014年 2月 取締役副社長 2015年 2月 取締役副社長 2016年 2月 取締役副社長 2017年 2月 取締役副社長 2018年 2月 取締役副社長 2019年 2月 取締役副社長 2020年 2月 取締役副社長 2021年 2月 取締役副社長</p>	<p>野見 和明 取締役副社長 取締役副社長 取締役副社長</p> <p>経歴 1958年 7月 津田製作所 取締役 1968年 7月 津田製作所 取締役 1971年 7月 津田製作所 取締役 1974年 7月 津田製作所 取締役 1977年 7月 津田製作所 取締役 1980年 7月 津田製作所 取締役 1983年 7月 津田製作所 取締役 1986年 7月 津田製作所 取締役 1989年 7月 津田製作所 取締役 1992年 7月 津田製作所 取締役 1995年 7月 津田製作所 取締役 1998年 7月 津田製作所 取締役 2001年 7月 津田製作所 取締役 2004年 7月 津田製作所 取締役 2007年 7月 津田製作所 取締役 2010年 7月 津田製作所 取締役 2013年 7月 津田製作所 取締役 2016年 7月 津田製作所 取締役 2019年 7月 津田製作所 取締役 2022年 7月 津田製作所 取締役</p>

<p>奥田 正純 取締役副社長(監査等委員)</p> <p>経歴 1982年 2月 奥田製作所(株)入社 1989年 4月 奥田製作所(株)副社長 1997年 2月 奥田製作所(株)取締役 2004年 2月 奥田製作所(株)取締役 2011年 2月 奥田製作所(株)取締役 2018年 2月 奥田製作所(株)取締役 2020年 2月 奥田製作所(株)取締役</p>	<p>小村 隆 取締役副社長(監査等委員)</p> <p>経歴 1964年 11月 東京理科大学 1997年 4月 株式会社野見 1998年 4月 株式会社野見 2002年 10月 小村製作所(株)副社長 2019年 9月 小村製作所(株)取締役 2020年 9月 小村製作所(株)取締役</p>
---	---

44 TWINBIRD Integrated Report 2020

執行役員

<p>小林 和明 執行役員 取締役副社長 2019年入社</p> <p>経歴 銀行システム会社において総合企画よりシステム開発部長まで担当。その後、証券会社にてシステム開発部長などを歴任。</p>	<p>高木 晋也 執行役員 取締役副社長 2019年入社</p> <p>経歴 大手家電メーカーにおいて海外地域統括部長、本社執行役員兼統括部長、大手家電メーカーにて海外地域統括部長などを歴任。</p>
<p>浅見 孝幸 執行役員 マーケティング部長 2019年入社</p> <p>経歴 大手家電メーカーにおいて海外マーケティング部長、年間販売額を伸ばすマーケティング部長、マーケティング部長などを歴任。</p>	<p>河村 吉章 執行役員 経営企画部長 2019年入社</p> <p>経歴 大手家電メーカーにおいて経営企画部長、経営企画部長、海外マーケティング部長、海外マーケティング部長などを歴任。</p>
<p>高木 浩二 執行役員 営業部長 2020年入社</p> <p>経歴 大手家電メーカーにおいて国内マーケティング部長、営業部長、営業部長などを歴任。</p>	<p>宮井 剛 執行役員 営業部長 2019年入社</p> <p>経歴 大手家電メーカーにおいて営業部長、営業部長、営業部長などを歴任。</p>

<p>文園 明之 執行役員 営業部長 2020年入社</p> <p>経歴 大手家電メーカーにおいて営業部長、営業部長、営業部長などを歴任。</p>
--

TWINBIRD Integrated Report 2020 45

強化した経営陣と策定した「中期経営計画」に基づく主要施策効果で収益性向上。一歩ずつ着実に体制の構築を推進しています。統合報告書では、財務情報及び当社の歩み、社長メッセージ、中期経営計画、ESGの取り組みなど非財務情報を分かりやすくご紹介し、ステークホルダーの皆様との対話も強化を図ります。

IV. 新中期経営計画の骨子



IV-1. 基本戦略・事業戦略

**事業構造を筋肉質に転換
強化した財務体質を活用し収益事業で成長を目指す**

**TWINBIRD
ブランド価値向上**

経営品質の向上

成長事業の進展

ロイヤルカスタマーの創造

伸びる市場×シリーズ化
＝スケール

お客様起点のこだわりの
商品開発

商品ポートフォリオの最適化

継続的な原価と品質の作りこみ

サプライチェーンの最適化

デジタル化の推進

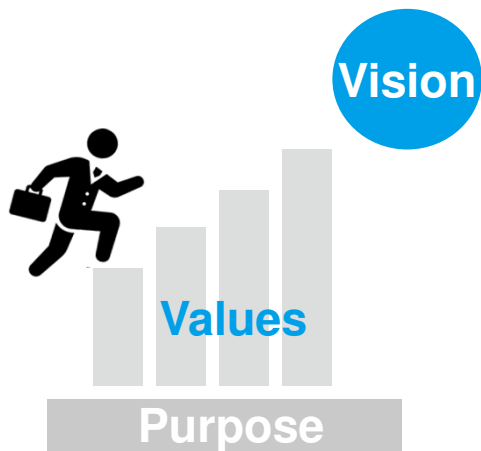
人材育成と人的資源の強化

効率的な海外販路・
事業パートナーの開拓

セールスエンジニアリング
強化でFPSC事業拡大

※新冷却技術FPSC
(フリー・ピストン・スターリング・クーラー)

ステークホルダーズ（株主・お客様・取引先・社員・地域社会）への貢献



ニーズ多様化の時代
ターゲット：
少人数単独世帯
シンプルかつ拘りの
生活を求める消費者



経営理念

- 感動と快適さを提供する商品の開発
- 相互信頼を通じた豊かな関係づくり
- 快活な職場づくりへの参画と社会への発展への寄与
- 自己の成長と豊かな生活の実現

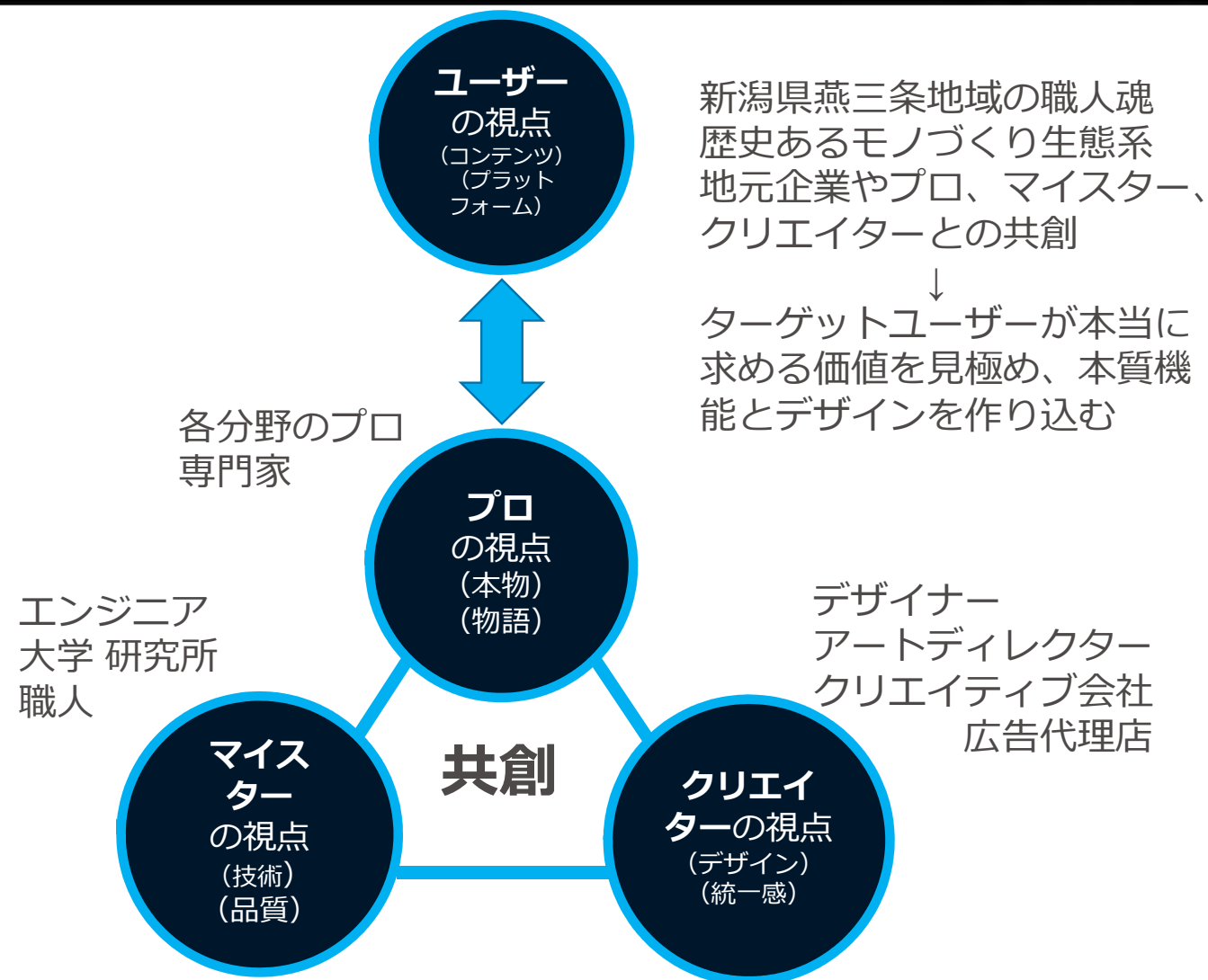
- ◆ Purpose (パーパス) 存在意義、使命
- ◆ Values (バリュー) 価値観、行動規範



◆ Vision (ビジョン) 将来ありたい姿

「お客様満足No.1」

お客様の声に真摯に耳を傾け、職人氣質のものづくりで、
お客様にご満足いただける商品・サービスをお届けし続ける会社



新タグライン

ぜんぶはない。
だから、ある。



新製品のご紹介

TWINBIRD

センサー付フラット電子レンジ DR-F281W

あなたの暮らしを支える、
「頼れる」電子レンジ



 GOOD DESIGN
AWARD 2020

コードレス スティック型クリーナー TC-E263GY

あなたの暮らしを支える、
「スマートな」スティック型クリーナー



ケアドライヤー TB-G008JPW

やさしく速く乾かす、
髪を労わるケアドライヤー



 GOOD DESIGN
AWARD 2020

FPSC(フリーピストンスターリングクーラー)事業の注力4分野



- 注力4分野における重点顧客との取引深耕及び成功事例の横展開によりFPSC事業拡大を目指します。
- 医薬・バイオ分野のうち「ワクチンの配送・保管」は新型コロナウイルスへの対応として世界各国で喫緊の課題です。



ワクチンの配送/保管

- ほとんどのワクチンは、生物学的成分に由来するため非常に不安定であり、有効性と安全性を維持するために温度を正しく制御する必要があります。
- FPSCの極低温対応、精密温度制御、輸送に適したポータビリティ等がワクチン配送や接種施設でのワクチン保管といった用途に最適です。**



- 世界保健機関（WHO）によると、現在約170か国で新型コロナウイルスに対するワクチン開発が進められています。
*1 これと同時に、ワクチンの製造からワクチン接種の現場（病院、クリニック、公共施設など）まで**ワクチン品質の有効性を維持しつつ、安全、確実に輸送する「低温保管の物流網（コールドチェーン）」の構築**が急がれています。
- ✓ 200以上の国への配送が必要になり、78億人に1回の投与量は、8,000機の747型が満杯になる量（IATA）*2
- 従来の不活性ワクチン・生ワクチンの多くは輸送要件は+2~8℃*3ですが、後期臨床試験段階に入っているCOVID-19用有力ワクチンは極低温での温度管理を輸送保管要件とする可能性がある」と報道されています。*4**
そのため、**極低温対応のコールドチェーンを再構築し、またワクチンの接種施設として想定される病院、クリニック、公共施設などでは極低温でワクチンを保管する機器を新たに備える必要が生じる可能性**があります。

コールドチェーンのワクチン輸送と保管では、極低温での厳格な温度管理が求められます



*1 The Wall Street Journal 2020年9月15日付け記事より引用 *2 公益財団法人日本ユニセフ協会の2020年9月27日付けプレスリリースより引用
*3 日本ワクチン産業協会資料「ワクチン類の取り扱いについて～輸送・保管における注意点」を参照 *4 The Wall Street Journal 2020年9月7日付け記事を参照

- 従来のコールドチェーンの輸送や病院・クリニック・公共施設などのワクチン接種施設の多くは極低温対応の機器を備えていないため、新たな需要が期待されると当社は考えています。
- 当社FPSCフリーザーボックス商品（米国Global Cooling社へのコンポーネント供給含む）はそれぞれワクチンの管理温度に対応できます。また精密な温度制御可能でワクチン輸送や末端のワクチン接種施設でのワクチン保管に適しています。

【ワクチン管理温度*1】



*1 The Wall Street Journal 2020年9月7日付け記事を参照

F P S C事業につきましては、医療関連向けの受注やお引き合いをいただいております。

➤ 海外企業を中心に受注、数多くの引き合い

➤ 現在の受注状況

✓ 当社主要取引先Global Cooling, Inc.社(※) (本社所在地：米国オハイオ州) より
当社製フリーザーボックスを初期ロットとして前期販売台数約2倍相当1,000台新規受注

(※) Global Cooling, Inc.社について:1998年よりFPSCの技術開発・製造における
パートナー企業。UTL25NEUのFPSCエンジンを除くフリーザーボックスは当社が供給。

⇒ 今後も米国の低温保管物流網(コールドチェーン)の標準製品として開発に取り組む

➤ COVID-19対応技術のODA導入可能性調査の採択

✓ 独立行政法人 国際協力機構 (JICA) より「COVID-19を受けた途上国における民間技術の活用可能性に係る情報収集・確認調査」について、当社 F P S C 製品が採択。この調査に協力することで、対象国におけるCOVID-19感染拡大後の業界構造の変化や新たなニーズを踏まえた当社製品の導入可能性に係る考察を取り纏めた個別報告書が入手可能に。

⇒ 途上国におけるビジネスチャンス・当社製品のODA事業等へ活用可能性等の検討を進める。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

3 すべての人に
健康と福祉を



8 働きがいも
経済成長も



9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



13 気候変動に
具体的な対策を



17 パートナーシップで
目標を達成しよう



新興ウイルスによるパンデミックの可能性や発生頻度は今後益々高まるものと想定されております。

当社は SDGsの一つである「すべての人に健康と福祉を」の達成に向けて、国内外のネットワークを通じてグローバル規

模での最新技術に基づくコールドチェーンの構築や医療サー

ビスの拡充に参画し、当社スターリング冷凍技術が医療分

野でスタンダードの一つとなるよう取り組んでまいります。

私たちは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています

©2020 TWINBIRD CORPORATION All rights reserved.



I Rに関するお問い合わせ先

ツインバード工業株式会社 執行役員 経営企画本部 本部長 小林 和則 (TEL : 0256-92-6111)

決算に関するお問い合わせ先

ツインバード工業株式会社 最高財務責任者 執行役員 管理本部 本部長 高木 哲也 (TEL : 0256-92-6111)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する意見や予測等は、資料作成時点で一般に認識されている経済・社会等の情勢及び、当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されており、その情報の正確性を保証するものではなく、今後予告なしに変更される可能性があります。万が一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切責任を負いませんのでご承知おきください。

©2020 TWINBIRD CORPORATION All rights reserved.